

地域の歴史紹介コーナー

ここでは、第43回ワークショップで決まった「地域の歴史紹介サイン」を順次紹介していきます。

羽沢の硯松（すずりまつ）

文明10年（1478年）頃、江戸城を築いたことで有名な太田道灌が小机城を攻めるときに、この松の木の下で、矢立（硯箱）を取り出し「小机は先ず手習いの始めにていろはにほへとちりぢりになる」という一句をしたため、心身ともに傷ついた兵を励ましたと言われています。

このことから、この松は硯松と呼ばれています。



↑現在の松は？代目

地域の坂・道アンケート活動と第44回横浜国大ワークショップについて

11月7日(土) 13:30～15:30、常盤台地域ケアプラザ・コミュニティハウスで第44回横浜国大ワークショップが開催されました。地域に愛着を育む第2弾として、私達が日常歩いている坂や道の名称を地域の人達に提案していただき、それをサイン(看板)として、坂や道に掲示していく活動を2020年8月から開始しました。具体的には、横浜国大生が作成したアンケートを各世帯に配付し、近隣の坂や道の名称案を出していただきました。

そのアンケートを自治会町内会で回収し、たくさんの名称案から一つに決めました。皆さんから頂いた名称は、甲乙つけ難く絞るのに大変苦労しました。アンケートに協力していただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

各自治会町内会で決まった坂・道の名称がワークショップで披露され、正式に決まりました。ワークショップではサインのデザインも検討され決まりました。今後、製作、設置に向けて進んでいきます。

